



2025年

二葉幼稚園 園のたより



7月の聖句

いつもよろこんでいなさい。たえずいのりなさい。
どんなことにもかんしゃなさい。

テサロニケの使徒への手紙 | 5: 16~18

7月のさんびか

そのかずいくつ

幼児さんびか 21

はずんで/おもいっきり

いよいよ夏本番！スコールのような激しい雨や熱中症特別警戒アラート発令を懸念する暑さに頭を抱え、子ども達の生活を取り巻く自然との関係にハラハラドキドキする日々です。一方で、一学期間で子ども達もご家族の皆様も交流が深まり、園舎や園庭に笑い声が広がります。

二葉では子どもの時にしかできない(であろう)泥んこ遊びをおもいっきり！と、特にこの時期のお楽しみとしています。各クラスで今年2回目の泥んこ遊びの日。溜まる仕事を横へ置き、いざ！砂場へ裸足で出かけると既に「もう、あがる～」と「さむい～」と1/3が保育室方向へと戻っていきます。2/3はまだ意気揚々と遊んでいたのに涼しい顔で泥んこにもぐりこみました！気づいた子ども達がいたずらっぽい笑顔で泥をウヒヒヤと私の肩に、背中に、頭にとべちゃべちゃのせてきます。「あ～気持ちいい、つめた～！」ゲラゲラゲラ。「こっちはせき止め」「こっちは川で繋げようぜ」「ここは島にする」「ダムも造ろう！」それぞれのイメージを共有させながら遊びが広がっていきます。「さあ、いっくよ～」担任がコンテナに水を入れて「バッシューン」キャッキョと笑う子ども達。

そこへ年少さんが外遊びにきました。泥んこ遊びをしてる年中さんを見て・・・「あ！園長先生があそんでる・・・!!」すると「私も！」とばかりにすぐ泥に浸かりに来てはにっこにこの♻️ちゃんもいれば「泥んこ怪獣だぁ」と泥んこスタイルで追いかけていくと必死で逃げて、離れた所で笑っている年少さんも数人いて、各々の楽しみ方があるものです。後日、年少は5分間水遊びも慣れたものでした。

乳幼児期の子どもの達にとって五感の優れている時だからこそ、様々な物に触れ、嗅ぐ、聴く、見る、味わう体験を皆さんも大切にされていることと思います。ただ泥んこ、となると中々家庭や公園で、子ども達のこころが弾むまで思いっきり、とは難しいようです・・・。

今の年長さんも年少の時から泥んこ遊びを経験してきました。勿論、砂を触ったり、手が汚れたりすることを好まない子ども達もいるので、無理強いはいしませんし、泥んこができることだけをよし、としているわけではありません。「心地よさ」は人によってそれぞれです。時期によっても変わるでしょう。

年少の時に泥んこを遠巻きに見ていた☆君。年中では泥砂に少し近づき、今年年長2回目の泥んこ遊びでは泥の池に自ら入り満面の笑みで楽しむ姿がありました！両足を伸ばしてべたりと座ると、保育者や友達により「☆君の足を埋めてしまえ～」と泥に埋められる自分の足の様子をニコニコと眺め、程よく両足が埋まると自分で両足を持ち上げ、泥からぬ～っと足が出てくる様子に「もっかいもっかい、やってやって！」とリクエスト。何度もこのやりとりを楽しみ、今度はそのまゝ泥風呂に全身浸かろうとしてはちょっとずつ仰向けに身体を倒し、少し倒しては「ハハッ」と笑って上体を起こし、もう少し倒しては、ぶるっと身震いしてまた上体を起こし、徐々に身体を慣らして様子を見るようにして・・・数分後、とうとう泥風呂に仰向けで寝転んだ☆君!!身体全体で大きく深い息をしてパーグラの天井をまっすぐ見て、何とも満足げな笑顔。私は☆君の3年間の歩みとこの変化、あまりの喜びに、今この瞬間を忘れまい、と心のカメラのシャッターを大事に大事に押しました。【園長】